

中国都市安全建設の高次化への課題と傾向

CCID(賽迪顧問) ソフトウェア・情報サービス業研究センター 陳玥如

2005 年から始まった平安都市の建設は、東部の先進地区から中西部の後進地区へと広がり、中国国内 31 の省、自治区、直轄市に及んでいる。現在、東部の中心都市では大規模かつ集中的な建設がほぼ終わり、スマートシティ化を重点に品質重視に向かっている。中西部の中心都市及び東部の二、三線都市は急発展期に差し掛かっている。

国連開発計画の「2013 年中国人類発展報告」によると、2011 年の中国の都市人口は初めて農村を抜いて 6 億 9 千万人に達した。それに合わせて都市化率も 36.22%から 51.27%へと上昇。わずか 62 年で 10%から 50%へと増加したことになる。同様の変化に欧州では 150 年、ラテンアメリカでは 210 年かかった。

CCID(賽迪顧問)のデータでは、2012 年末現在、中国の平安都市市場の規模は前年同期比 20.8%増の 1,759 億元(約 2 兆 9,903 億円)。市場全体としてハイペースの伸びを維持し、15 年末には 3,064 億 8 千萬元(約 5 兆 2,101 億円)規模が見込まれる。(図 1)

図 1 中国平安都市市場(広義)の規模及び予測(2008-2015)



データ出典: CCID(賽迪顧問) 2013, 10

■本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。また、電子的または機械的手段を問わず、本資料の一部または全部を無断で複製・転送等を行わないようお願い致します。

五つの課題

これまでの平安都市建設はインフラ建設を中心に進められ、一線都市から三、四線都市へとシステムを広げていく形がほとんどだった。統計では、中国国内の平安都市には 2,300 万台以上の防犯カメラがあるが、トップダウン設計がなされず事前の想定も不十分なため情報の共有や活用が難しいものが多い。技術や設備の面で不備があるため、次の 5 つの大きな課題が生じている。すなわち「画像の鮮明度」「ネットワークの円滑性」「ストレージ」「情報の共有」「分析の高度化」である。

四つの傾向

クラウドコンピューティング、ユビキタス、モバイルインターネット、ビッグデータ、スマートシティなど新しい技術や利用法が次々に登場し、平安都市建設に新たな視野やソリューション、展望がもたらされている。これからの平安都市には四つの傾向が考えられる。

一、センサーの偏在——従来の音像から多様なアクセス源へ。行動認証、生体認証、ターゲットの検知・分析、自動追跡認証、動作認証などの技術が重点となる。

二、高効率伝送、スマート管理——有線から広範なネットワークへの接続。各地域の特徴に適した伝送方法が整備されていく。バックグラウンド処理では、ストレージが IP-SAN、NVR、VCN、クラウドストレージへと進化し、ビッグデータを伝送・コントロール・移転する時代が早くもやって来そうだ。

三、スマート分析——事後追跡から予防へ。膨大な映像のスマート分析、情報検索、特徴認証、画像補正、通報・監視などが可能になる。スマート交通が飛躍的に発展し、膨大な交通情報の比較・分析・予測による車両監視・渋滞情報サービス・最適ルートプラン・交通管理サービスが実現される。

四、連携管理——単一業界からスマートシティへ。警備業務では「金盾（公安情

報システム)」などの公安業務システムとの融合が実現する。また、都市管理、公共交通、緊急対応、環境保護などその他の社会管理システムとの融合が進み一層広範囲の連携が実現。総合的管理や通信の統一が実現され、スマートシティ建設の要となる。

統一的な計画とイノベーションの集積

今後の産業や技術発展の趨勢との関係で平安都市の現状と課題を見ると、統一的な計画やイノベーションの集積を強化して新型平安都市の建設を推進すべきだというのが賽迪顧問ソフトウェア・情報サービス業研究センターの見解である。

政府部門は統一的な計画を強化してトップダウン設計を重視、サービス意識を向上させて運営管理に力を入れるべきである。サービス社会を究極の目標に掲げ、利益誘導目的の事業を根絶して無用な建設をなくすことだ。

企業はイノベーションを進め、地域密着型と集積化への転換を図るべきである。ビッグデータやモバイルインターネット、クラウドコンピューティング、ユビキタスなどの新興技術を自社の得意分野にうまく取り入れ、製品やソリューション、ビジネスモデルの刷新を進めるべきだ。先を見通して三・四級都市や農村市場を整備し、単一製品のサプライヤーから総合的なシステムインテグレーターへと大きく転換、資源統合力をアップして産業生態系への影響力を強化するべきだ。

■ 賽迪顧問股份有限公司 (CCID) のご紹介

CCIDは、中国「工業情報化省」傘下で中国最大のコンサルティング会社です。2004年には、中国のコンサルティング会社として初めて香港証券取引所への上場を果たしました。各国の企業に対し、市場調査やマーケティング戦略・販売チャネルの構築支援など多岐にわたるサービスを提供しています。現在は北京本社のほか、上海や広州、深センに支社、日本や米国、韓国、イタリアに事務所を置いてあり、世界的に高い知名度を誇っています。

■ CCID日本事務所

設立: 2007年10月

代表: 朱偉徳 (ファーイースト・パートナーズ株式会社 代表取締役)

役割: 中国市場調査サービスのご提供 (市場レポート、市場データ、受託調査)

住所: 東京都新宿区西早稲田 1-22-3 (ファーイースト・パートナーズ株式会社内)

■ 中国市場調査サービス



中国市場調査レポート

中国市場の今を知る
最新マーケティングレポート

2012-2013年版中国市場調査レポートを
4月1日より販売開始。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/report.html



中国市場データ配信

企業別・地域別最新データの
定期配信サービス

ご希望分野のデータを定期的にお届けする
サービスです。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/data.html



中国市場受託調査

政府系コンサル企業による
ニーズ・目的に応じた調査

調査地域・分野を問わず、お客様固有の
ニーズに合わせて実施するカスタムリサー
チサービスです。詳細はこちら↓

www.j-fep.co.jp/consul/custom.html

■本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。また、電子的または機械的な手段を問わず、本資料の一部または全部を無断で複製・転送等を行わないようお願い致します。